

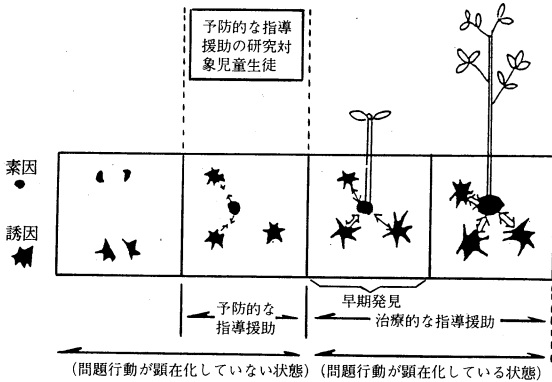
事例を通した教育相談の進め方に関する研究

予防的な指導援助

—教育相談部 第一年次・実践研究—

一、研究のねらい
 問題行動の発生までには相当の潜在期間が存在する。そのため、顕在化した時点で問題行動は多くの要因が複雑に関係し合っており、指導援助に相当のエネルギーを必要とする。また、指導援助がなされても、問題の改善や解決が困難な場合もある。
 そこで、児童生徒を問題行動にまで

図1 予防的指導援助の対象児



二、「予防的な指導援助」とは
 問題行動を起こすことが予測されたと診断された児童生徒、または、現在の行為や行動が問題行動に向かって増

三、予防的な指導援助の現状と課題
 予防的な指導援助の要点と基本的対応を把握するため、児童生徒（三千五百六十九人）と教師（九百三十六人）を対象にアンケート調査を実施し、現状を把握した上で課題をまとめた。下図は児童生徒へのアンケート結果の一部である。（図2・図3参照）

図2 アンケート項目

反社会的行動につながる気持ち
 （以下反社会的気持）
 気分がムシャクシャして、おもしろくない。
 誰れかをやつたりするか、なにか悪いことがしたい。どうせ人は、悪いことをしているのだから。

非社会的行動につながる気持ち
 （以下非社会的気持）
 自分の気持ちを分かってくれる人はいない。
 自分がとてもみじめに思え、とてもさみしく、つらい。

幅されつつあると診断された児童生徒に対して、問題行動につながる素因や誘因を改善、解決または除去することである。この場合の研究対象児は、図1のようなとらえ方で研究を進めた。また、すべての児童生徒に対しても問題行動を起こさないための意識づけを図り、問題行動の発生を予防する指導援助としてとらえることにした。

図3 アンケート結果（数字は1.0セント）

	ア 気持	イ 気持	エ 無回答	
	0	50	100	
小学校	反社会的気持	12.8	44.4	42.5
	非社会的気持	16.8	30.3	52.9
中学校	反社会的気持	20.2	52.7	26.0
	非社会的気持	21.7	36.8	40.1
高等学校	反社会的気持	23.0	56.9	19.0
	非社会的気持	21.0	36.6	40.7

四、予防的な指導援助の要点と基本的な対応
 前述の調査から、予防的な指導援助に必要なと思われる内容が表1および表2のように明らかになった。

- 児童生徒からみて効果のある指導援助内容
- 教師が実際にを行った本人への指導援助内容
- 教師が実際にを行った家庭への指導援助内容
- 教師が実際にを行った学級全体への指導援助内容
- 児童生徒が教師に望む対応
- 教師が必要と考える指導援助
- その他